opusdei.org

## 無原罪の聖マリアへ の9日間の祈り―7日 目

黙想のテーマ:「心を満たす」「清めが必要である」 「永遠の命の序章|

1日~6日目の黙想

心を満たす

清めが必要である

永遠の命の序章

聖ヨハネは、十字架の下に佇んでい た唯一の使徒です。彼にとって心を 完全に満たす愛を放棄するのはあり えないことで、逃げるなど全く意味 をなさない行為であったことでしょ う。彼はイエスに、自分のもっとも 価値あるもの・心を差し上げまし た。ですから、キリストはもっとも 尊い宝を彼に委ねたのです。「イエ スは、母とそのそばにいるあいする 弟子とを見て、母に、『婦人よ、ご 覧なさい。あなたの子です』と言わ れた。それから弟子に言われた。 『見なさい。あなたの母です』| (ヨハネ19・26-27)。この時、「心 の清い人々は幸いである、その人た ちは神を見る | (マタイ5・8) と、 イエスが言われたことが成就されま した。心の清い人々は主を見るだけ ではなく、その御母をも自宅にお迎 えすることできるでしょう(ヨハネ 19・27参照)。「キリストに従う者

は、使徒ヨハネのように、子としての信頼をもって自らをマリアにゆだね、キリストの母を『自分のもとに』招き、自分の内面的な生活、すなわち人として、キリスト者としての『自分』の全域に迎え入れるのです」[11]。

聖書は、心によって、人は、単に感 覚的なことだけではなく、人間の もっとも内奥のその人となりを表わ すことを理解すると言っています。 聖ヨハネは、つまらないものでは満 足しない情熱的な心の持ち主です。 善い時も悪い時も、真実で高貴なこ とを探し続けます。つまりイエスに おいて経験した神の愛です。詩編作 者がこのことは全ての人に可能なこ とだと述べています。「心よ、主は お前に言われる、『わたしの顔を訪 ね求めよ』と。主よ、わたしは御顔 を尋ね求めます。御顔を隠さないで ください」 (詩編27・8-9) 。神だけ が、人間の心の望みを全面的に理解

し応えることができます。ですか ら、ヨハネは主に出会ったとき、ヨ ブのように叫ぶことができたので す。「あなたのことを、耳にしては おりました。しかし今、この目であ なたを仰ぎ見ます」(ヨブ42・5)。 7日目の今日は、イエスの御顔を求 める望みを聖マリアと共に深めるこ とができます。「あなたの富のある ところに、あなたの心もあるのだ| (マタイ6・21)と、主は、ある機会 に言われました。確かに主の御母 は、私たちが「人生で持ち得るもっ とも素晴らしい善は神との関わりで ある | 121 ことを弁えるよう助けて下 さいます。

福音書には、聖ヨハネとマリアとは 対照的な人々もいます。彼らは、目 の前のイエスを見分けることができ ません。エマオの弟子たちの場合で す。彼らは道すがらイエスのご死去 について語り合っていました。「イ エスご自身が近づいて来て、一緒に 歩き始められた。しかし二人の目は 遮られていて、イエスだとは分から なかった (ルカ24・15-16)。神 は、弟子たちがエルサレムでの出来 事を理解し、主を信じることができ るように、邪魔になっている内的盲 目を癒そうと望まれました。それ で、彼らと出会いに行かれます。今 日でも改めて私たちのところに来て 下さいます。「私たちは、暗闇の中 を手探りで歩いたり、正しいことを 探そうと彷徨ったり、牧者のいない 羊のように、どこを目指したらよい のか分からない者ではありません。 神は正しい道を示しました。神ご自 身が道を教えてくださったので す」。イエスは、夕暮れ近くになる と、あの弟子たちの目を開こうと、 とがめるような口調で、「あゝ、物 分かりが悪く、心が鈍く預言者たち の言ったことすべてを信じられない

者たち」(ルカ24·25)、と言われます。そしてパンを裂くときにそれを解決されました。

マリアは、神の恩恵と細やかな応答 によって、罪に由来する内的な暗闇 に陥ることはありませんでした。い つも出来事の全てを理解したわけで はありませんが、純粋で神の知恵を 受け入れるセンスがあったのです。 それで、懐胎した無防備な子どもを 世話する役目ゆえに、自分が存在す ることを承知していました。彼女 は、訪れるキリストを、私たちが正 しく見て取るために視点を清めるよ う助けてくれます。弱さと罪に傷つ けられている私たちは、この世的な レベルだけで歴史を評価し、偽りの 約束に期待してしまい、寂しい思い をします。神の約束ではないからで す。マリアは、この9日間の祈りの 日々に「罪から生まれた内的な偽り に対する | 私たちの高貴な戦いに同 伴してくださいます。「なぜなら、

罪は内的な視点と物事の価値を変え、真実でないもの、あるいは少なくともそれほど真実でないものを、真実であるかのように示すからです | 図。

心の清めの必要なことは何も屈辱的 なことではありません。逆に、キリ ストの御顔を眺める望みを活き活き とさせてくれます。全ての聖人が経 験したことです。聖ペトロは、キリ ストの招きに、自己の功徳と能力を 誇りに思いながらではなく、自己の 無知を認めつつ、答えました。「主 よ、わたしから離れてください。わ たしは罪深い者なのです」(ルカ5・ 8)。こういうことから、聖ホセマ リアは記しました。「わたしは自分 の惨めさを清めて冠とし、それを神 の御母・私の母の頭に載せよう。私 には宝石も徳もないからである| M. 私たちが、罪人であることを認 めることは、心の清さへの第一歩で

あり、同時に、御母とそっくりの主 の御顔を見つめさせてくれます。

心の清い人の幸せと神を見ること は、後の世においてだけ可能な観想 に関わることのように思われます。 つまり、心の清さによる報いを受け るのに、天国を待つことが必要だと いうことです。しかし、イエスのこ の約束は、この世においても神の現 存を味わえるようにしてくれます。 カトリック教会のカテキズムがいっ ています。「『心の清い人々』に は、顔と顔を合わせて神と相まみ え、神に似た者となることが約束さ れています。心の清さと言うもの は、神を見ることができるための前 提条件です。心の清さを持っていれ ば、わたしたちはすでにこの世にい るときから、神の立場でものごとを 眺め、他人を『隣人』として受け入

れるようにしていただけるし、自分や他人のからだが聖霊の神殿、神の美の顕現だと認めることができるようにしていただけるのです」
「5]。

マリアはいつも御子を顔と顔を合わ せてみることができたのではありま せん。事実、ご昇天後、主の不在の 時があったのです。しかし、どんな ことがあろうとも、十字架上で「婦 人よ、ご覧なさい、あなたの子ども です」と言って与えられた使命を忘 れることはなかったのです。この時 から、あらゆる時代の全ての子ども たちを、その清い心に受け入れ、一 人ひとりのうちにイエスの面影を見 ておられます。もう単に『人』とし てではなく、そのために御子がいの ちを捧げた子どもたちとしてご覧に なります。

清い心の人は、周りの全ての事に、 神の御手を見るようになります。第 一に一人ひとりのうちに。私たち

は、愛のために造られました。それ は、他者を自分に役立つ何かのよう に考えたりしないため、また、自己 の関心に従って、あるいは自己のわ がままから、誰かを支配するような 接し方をしたりしないためです。要 はむしろ、聖パウロが、忍耐強く、 情け深い、ねたまず、自慢しな い・・・(一コリント13・4-8参照)と 述べている慈しみ深い愛に関するこ とです。要するに、この愛によっ て、一人ひとりにキリストの姿を認 めることができるようになります。 これが聖マリアの生活を彩っていた 愛です。「超自然の感覚にあふれた 人ほどに人間味溢れる心をもつ人は いない。恩恵に満ちた方、父なる神 の娘、子なる神の母、聖霊なる神の 花嫁、つまり、聖マリアのことを考 えなさい。マリアの心には、全人類 が差別も区別もされずに入り得る。 一人ひとりが聖母の娘、息子なの だ | 1610

- [1] 聖ヨハネ・パウロ二世「救い主の母」45番。
- [2] フランシスコ、メッセージ、 2015年1月31日。
- [3] フランシスコ、一般謁見演説、 2020年4月1日。
- [4] 聖ホセマリア『鍛』285番。
- <u>[5]</u>「カトリック教会のカテキズム」 2519番。
- [6] 聖ホセマリア『拓』801番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-mugenzai-kokonoka7/(2025/12/16)